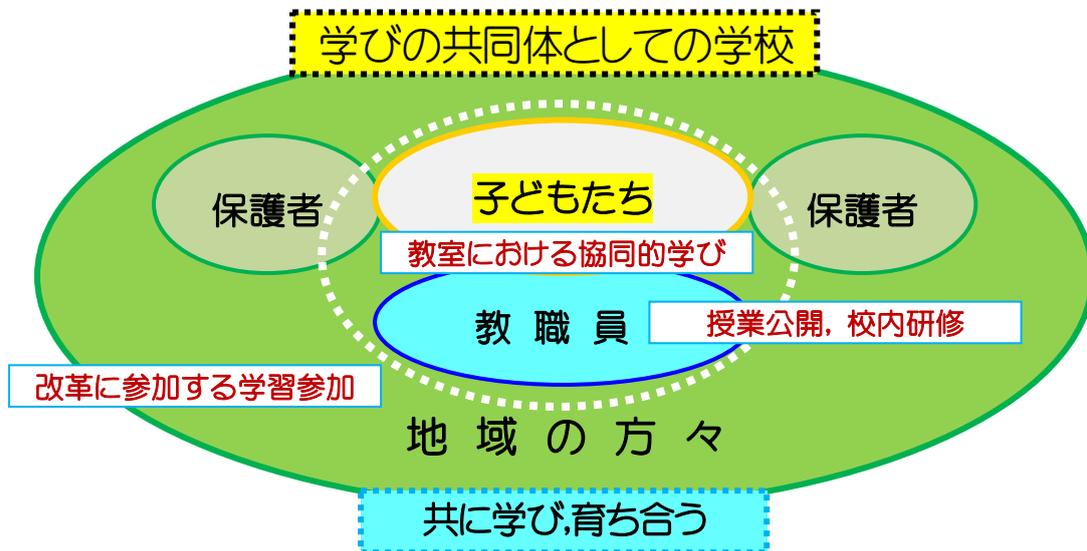




「学びの共同体としての学校づくり」

牛久市は、子ども・保護者や地域住民・教職員 が
共に学び、育ち合う まち！



「学びの共同体としての学校」では、子ども・保護者や地域の方々・教職員が、
共に学び育ち合いながら教育を支えています。(註:上図は編者による追加作成)

◇ 子どもたちは

学校という学びの場に集い、互いにかかわり合いながら、学ぶことの楽しさを実感的、体験的に理解しながら育ちます。

◇ 保護者や地域の方々は

授業や学校行事に「参加」することにより、子どもと共に学びながら、学校教育や家庭教育を支えます。

◇ 教職員は

授業づくりの考え方を共有し、同じ視点で授業研究をすることで、専門家として学び育ち合い、授業力を高め、子どもたちの学びの質を高めます。

参考原典：http://www.city.ushiku.lg.jp/scms/admin76381/data/doc/1355455185_doc_84_0.pdf

参照「牛久市の学び合い」：<http://www.city.ushiku.lg.jp/page/page004763.html>

B

各学校では「協同的な学習」により 1人残らず学びに参加する授業 を実現します！

◇そのため、市内全ての小・中学校で、最新の学習理論と事例研究に基づいた、次の6つの具体策を授業に導入しています。

1 「何を学ぶのか」という軸が見える授業

- ・授業の軸に沿って考えることで、誰もが参加でき、学びも深まる。
- ・そのために「本時に学ぶのは何か」を教師と子どもが共有する必要がある。

2 「学び甲斐のある課題」を探究する授業

- ・むずかしそうだけれど、どうにかできるかもしれないような課題に挑戦させる。
- ・発達の最近接領域にある課題(友だちと一緒にならできそうな課題)で思考を促す。

3 「探究の手がかり」となる資料で考える授業

- ・実際にものを見たり触ったり、資料からヒントを探したりしながら考える。
- ・頭の中の抽象的なものを「外化」して考える。

4 「グループ協同学習」で1人残らず参加できる授業

- ・ひとりではできそうもない課題でも、友だちと知恵を出し合えば解決できる。
- ・話し手と聞き手の交代により、わかるように説明したり、聴いて考えを深めたりする。

5 「コの字型の机配置」で対話と共有のある授業

- ・教師にではなく、友だちに伝わるように発言することで子ども同士の対話が生まれる。
- ・友だちの発言を聴いているときに、自分の考えとのすり合わせで学びが深まる。

6 「振り返り(省察)」で学んだ意味をたしかめる授業

- ・何がわかったのか、何がわからなかったのか、どんなことに困ったのかを共有する。
- ・友だちとの対話から自分を見つめ直し、自分の考えを形成・修正する。
- ・今日の授業で学んだことの意味を各自が言語化し意識化する。

◇協同的な学習では、次のような効果も期待されます。

- ・あまり自信がない子ども……「友だちが聴いて共感してくれたので自信がついた」
- ・考えがまとまらない子ども……「話を聴いているうちに自分の考えがはっきりしてきた」
- ・比較的理解が早い子ども……「わかったつもりでもよくわかっていないことに気付いた」
- ・小さなつまずきがある子ども……「先生にきかなくても、友だちにきいたら解決した」
- ・居場所を求めている子ども……「グループの友だちがさりげなく優しくしてくれた」

参考原典：http://www.city.ushiku.lg.jp/scms/admin76381/data/doc/1355455185_doc_84_0.pdf



基本理念・学校教育目標 (26年度～)

基本理念

ひとりひとりの子供に豊かな学びと自己有用感を保障する教育の推進
～「学びの共同体としての学校づくり」を通して～

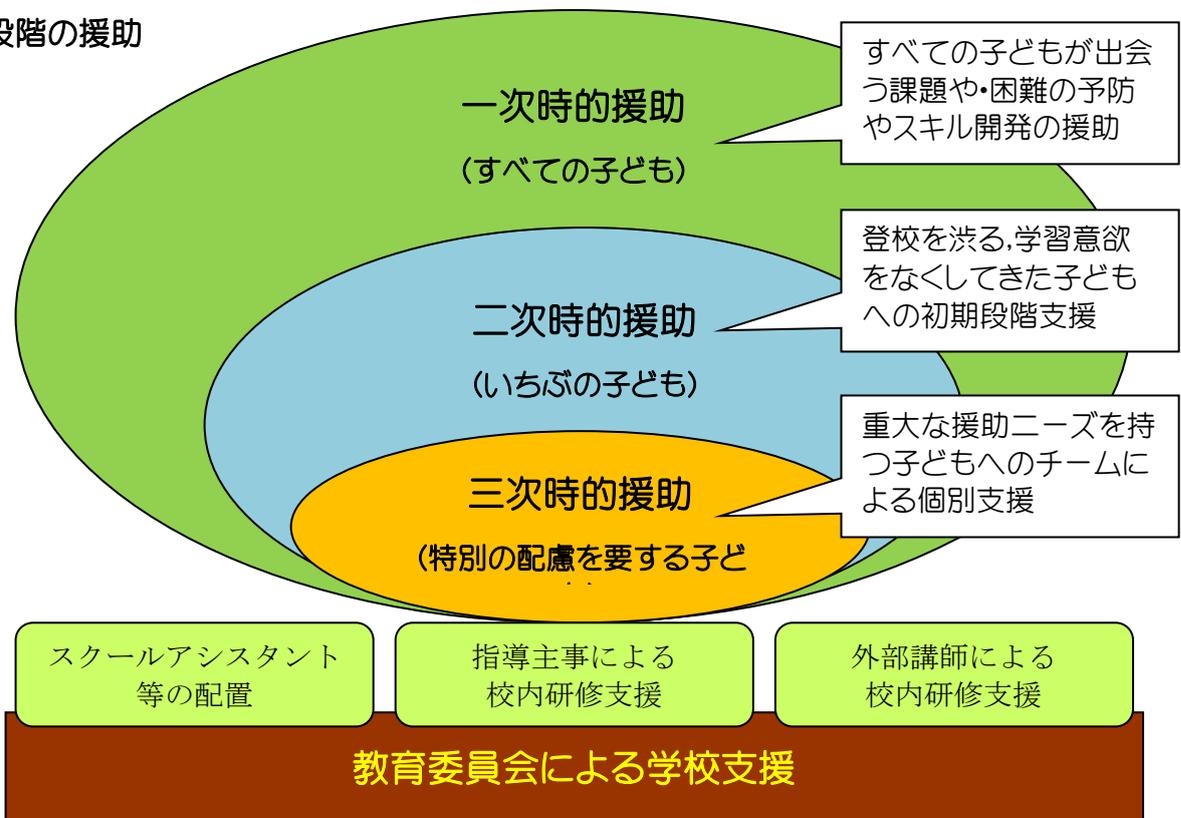
学校教育目標

知性にとみ、心身ともに健康で人間性豊かな児童生徒を育てる

学校教育の柱

<p>授業を軸とした学校づくり</p> <p>ケアリング・コミュニティを基盤としたラーニング・コミュニティの 創造 授業での自己有用感の向上と望ましい人間関係の育成</p>
<p>内外に開かれた学校づくり</p> <p>同僚の授業から学び、共に育ち合う教師集団 保護者・地域住民による学習参加の推進</p>
<p>安全・安心な学校づくり</p> <p>地域と学校の連携による安全確保と安心して暮らせるまちづくり 自他の人権が尊重される地域、学習権が保障される学校づくり</p>

三段階の援助



参考原典: http://www.city.ushiku.lg.jp/data/doc/1401960963_doc_84_0.pdf

D 「学びの共同体としての学校づくり」具体的施策(26年度～)

1 3つの柱に基づく具体的施策

(1) 授業を軸とした学校づくり

- ① 授業づくりを学校経営の軸とする。
- ② 校内研修計画に基づき、すべての教師が授業を公開する。
- ③ 授業公開後に授業事例検討会を実施し、子どもの学びを省察する。

(2) 内外に開かれた学校づくり

- ① 同僚に授業を開き、教育の専門家として学び合う職員集団をつくる。
- ② 市内外の学校に校内研修を開き、批評を求める。
- ③ 保護者や地域住民に学校を開き、学習参加を推進する。

(3) 安全・安心な学校づくり

- ① 教職員及び児童生徒による学校施設・設備の安全点検を定期的実施する。
- ② 家庭や地域との連携により、校外における児童生徒の安全を確保する。
- ③ 学校間及び関係機関との連携により、安全管理体制の維持向上を図る。

2 学びと自己有用感の評価・測定

C&S質問紙やQ-Uテストにより、自己有用感や所属感の自覚について見取りを行い、茨城県学力診断のためのテストや全国学力・学習状況調査により、学習権の保障・確かな学びの保障を行い、日々の授業改善に反映させていきます。

3 授業づくりと生徒指導 ～キーワードは「居場所づくり・絆づくり」～

<p>◇全ての児童が 安心・安全に生活できる学校 授業や行事に参加できる学校 互いを認め合える人間関係</p>	<p>問題行動やいじめを生まない 学校風土を授業を通して創る</p>
---	--

そのために、次のような**授業づくり**に**全ての学校**で取り組む。

「学び合いの哲学と活動システム」を導入した、協同的な学びを中心とする授業

- ◇チャレンジしたくなる「質の高い課題」を設定
- ◇個人がグループを利用して「活動的・対話的」に探究
- ◇「わからなさや問い」を共有し、最後は個人に返す

全ての子どもが参加し活躍できる授業で自己有用感を育む

※参考文献:生徒指導リーフ増刊号「いじめのない学校づくり」(国研・2013)

参考原典: http://www.city.ushiku.lg.jp/data/doc/1401960963_doc_84_1.pdf

E

平成28年度 牛久市学校教育目標

学びの共同体の学校づくり

**コミュニティ
スクール**
保護者や地域と
ともに子どもを
育てます
教育目標を共有
し協働します

アクティブラーニング
「学び合い」の授
業をより発展さ
せ、育てるべき学
力を明確にします
一人一人の子ど
もの学びの事実
を見とります

小中一貫教育
子どもの学びの
姿を9年間の成
長の中でとらえ
ていきます
各中学校単位で
知・徳・体を明確
にします

一人一人の学びを成立させ、確かな学力をそだてるために一人一人の子どもを大切にす、だれも見捨てない教育の実現

C&Sによる、学校の居場所づくり

結果として

学力テストにみる
学力の向上

一人一人の学びを保障する学校づくり

確かな学力
健やかな体と
安全・安心

系統的・継続的な
指導の充実
【縦の関係】
小中一貫教育の
推進
保幼小連携事業の
充実

豊かな心
新しい社会へ
の対応

地域と共にある開かれた学校づくりの推進 【横の関係】
・地域へ学校の情報を発信し、めざす子どもの姿・めざす学校の姿を地域の人々と共有する
・地域の人的資源と教育力を生かした学習活動の充実を図る

創意工夫を生かした魅力ある学校
管理職のリーダーシップと同僚性の構築(研修の充実・教職員の相互授業参観の日常化)

主体的・協働的な学びによる授業づくり